



サンビオティック農業で大豊作！

にんにく（ニンニク） 栽培基準



◆本園◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
9～10月	土づくり	完熟堆肥 有機石灰、またはスラ グ肥料 菌力アップ	2～3トン 100～200kg 5リットル×2回	土壌混和 土壌混和 灌水（100倍）	土壌pHは必ず6.0～6.5に調整します。 家畜糞堆肥の多投（1t以上）は避け、植物質の多いものを使用しま す。良質な堆肥がない場合は、五穀堆肥50袋／10aを使用します。前 作で、軟腐病や春腐病など病害が多発した圃場では、菌力アップを 10リットル施用する。 水田の裏作では、排水性の整備が重要なため、額縁明渠や弾丸暗 渠、高畝など、排水対策を行う。
	元肥	有機百倍、またはマッ スルモンスター 鈴成 水酸化マグネシウム	（暖地） （寒地） 3～5袋 6～8袋 10袋 10袋 10kg 10kg	土壌混和	定植2週間前までに土壌混和する。水酸化マグネシウムは必要に応 じて施用します。pHが6.5を超える圃場では、硫酸マグネシウム20kg を施用します。 追肥ができない作型（マルチ）では、遅効きのマッスルモンスターの方 が後半まで効くので良い。
10～12月	播種	菌力アップ 糖力アップ	5リットル 5kg	灌水（水1トン） 5～7日おきに4回 以上	温暖化の影響で、早く植えると一球果や二次成長などが増えます。 播種時期は、早すぎないようにします。 発芽後は、菌力アップ、糖力アップの継続的灌水で、土壌団粒を維持 し、発根状態の良い状態を継続することがポイント。 兼用管理機で散布する場合は、水300リットルに対して菌力アップ 5L、特濃糖力アップ1kgを混和して、雨前に散布する。
1～5月	追肥	有機百倍 硫酸カリ	（暖地） 1～2袋×3回 5～8kg×3回	20～30日おきに 土壌散布、培土	暖地では1～3月、寒地では3～5月が追肥時期。 露地では、有機百倍は、20日～30日おきに3回追肥する。施用量は、 気温や生育・地力をみて判断する。 病害を予防するため、寒波や暴風の後は、銅剤などの殺菌剤を散布 する。
3～4月	生長促進 収量アップ	菌力アップ 糖力アップ 海王	5リットル 2kg 100g	灌水（水1トン） 10日おき2～3回	地上部生育の重要な時期は土壌を乾燥させないようにします。菌力 アップ、糖力アップと海王で肥大期の根の活力を維持します。本気Ca （マジカル）1kgも追加すると、品質や耐病性も上がります。
3～4月	病害予防 病害対策	本気Ca（マジカル） マジ鉄 海王	1000倍 5000倍 5000倍	葉面散布 1週間おき 4～5月	軟腐病、春腐病、さび病対策には、本気Ca、マジ鉄、海王を葉面散布 します。展着剤を加用します。（農薬と混用できます。） 細胞壁を強化し、病害抵抗性を高めます。
水害・湿 害発生時	応急対策	酸素供給材 菌力アップ	規定量 10リットル	灌水 灌水2回	大雨水害等により冠水した場合は、MOXなどの酸素供給材を速やか に灌水し、翌日菌力アップ10L（50倍希釈）で灌水する。3日後、再度 菌力アップ10L（50倍希釈）を灌水する。

※地域、品種、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※できれば土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。